McDonald's CSR Report 2019

▶会社概要

日本マクドナルド株式会社

所在地	〒163-1339　東京都新宿区西新宿6-5-1　新宿アイランドタワー
電話	03（6911）5000（代表）
設立	1971年（昭和46年）5月1日
資本金	1億円
事業内容	ハンバーガー・レストラン・チェーンの営業並びにそれに付帯する一切の事業
店舗数	2,910店
売上高	5,490億円（直営店・フランチャイズ店合計売上）
社員数	2,085名（契約社員を除く） パートタイマー／約15万名（直営店・フランチャイズ店合計）（2019年12月31日現在）

▶企業情報

経営理念、会社概要、沿革・歴史、等は日本マクドナルドホールディングス株式会社
ホームページの企業情報をご確認ください。

企業情報
http://www.mcd-holdings.co.jp/company/

コーポレート・ガバナンス
http://www.mcd-holdings.co.jp/ir/governance/

▶企業理念

レストラン・ビジネスの考え方 = QSC&V

クイックサービスレストランとして最高の店舗体験の提供により、お客様にとって
「お気に入りの食事の場とスタイルであり続けること」をミッションとします。
そしてQSC&V（Q:品質、S:サービス、C:清潔さ、V:価値）をレストラン・ビジネスの
理念としそのミッションを達成します。

http://www.mcdonalds.co.jp/company/outline/rinen/

▶編集方針

本レポートは、日本マクドナルドが取り組んでいるCSR（企業の社会的責任）について、
その活動内容を報告しています。マクドナルドのCSRおよびそれに関連する取り組みを
開示することにより、多くのステークホルダーの皆さまと情報を共有し、
持続可能な社会につながればと考えております。

▶報告の対象範囲ほか

報告対象組織	日本マクドナルド株式会社（一部日本マクドナルドホールディングス株式会社を含む）
報告対象期間	2019年1月1日～ 2019年12月31日
報告対象分野	社会的責任関連全般（経営・社会・環境）
作成部・連絡先	コミュニケーション&CR本部 〒163-1339　東京都新宿区西新宿6-5-1　新宿アイランドタワー 電話　03（6911）5000（代表）

Contents

01 **会社概要・企業情報・企業理念・編集方針・目次**

02 Top Message

03 2019 Data & Action
- 食の安全・安心
- 雇用情報
- 環境情報
- 社会貢献

07 Scale for Good

08 Our Food
- サプライヤーとのパートナーシップと食材の管理
- マクドナルド食品安全・品質マネジメントシステム
- 情報開示

11 Our Planet
- 廃棄物・環境保全
- エネルギー対策
- エネルギー及び温室効果ガス（CO_2）排出量推移

14 Our Community
社会貢献活動

16 Our People

18 **SDGsから見た マクドナルド**

19 **マクドナルドとSDGsの関係**

20 **第三者意見**

Top Message

日本マクドナルドでは、日本全国約2900店舗で約15万人のクルーが働いており、毎年約15億人のお客様にお食事をお届けしています。多くのお客様やクルーに支えられてビジネスを行っている私たちには、安全で安心できる高品質で美味しい商品を、快適な店舗環境で提供するという以外にも、果たすべき社会的責任があります。食材や資材の調達における持続可能性の追求、品質や安全に対する情報開示。私たちの強みを活かした社会貢献や支援活動、クルーや従業員に対する責任。そして社会・環境への配慮など。こうした社会的責任を果たすことは企業として重要な意味を持っています。

企業の社会的責任の背景には、さまざまな社会的課題や環境問題があります。マクドナルドは、それらの課題にマクドナルドの持つ強みとスケール(規模)を活用して取り組むことを2018年にグローバル方針「Scale for Good」として発表しました。日本マクドナルドでも、特に注力する5つの柱として「持続可能な食材の調達」、「パッケージ＆リサイクル」、「ファミリーへのコミットメント」、「ピープル・エンパワーメント」、「気候変動への取り組み」を掲げ、SDGsも踏まえて取り組みを進めています。

このCSR Report 2019をご覧いただき、私たちのCSR活動をご理解いただけましたら幸いです。

日本マクドナルド株式会社
代表取締役社長兼CEO
日色 保

Data & Action

2019

食の安全・安心

食品安全・品質への取り組み

「安全・品質・衛生」管理

http://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_food/food_safety/#food_safety_index01

マクドナルド基準

http://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_food/food_safety/#food_safety_index02

生産地から店舗までの品質保証体制

http://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_food/food_safety/quality_management/

品質管理の歴史

http://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_food/food_safety/#food_safety_index03

トランス脂肪酸に対する取り組み

http://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_food/food_safety/#food_safety_index04

見える、マクドナルド品質

作り手の情熱

http://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_food/safety/tsukurite/

100%のこだわり

http://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_food/safety/good_quality/

食材の道のり

http://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_food/safety/factory/

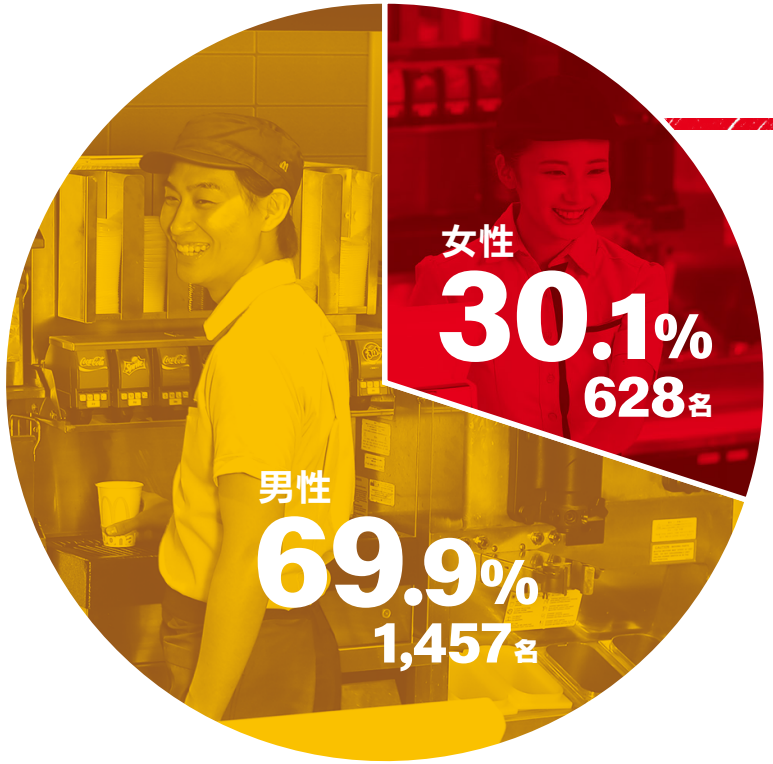
アレルギー・栄養・原産国情報

http://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_food/allergy_Nutrition/

Data & Action

2019 雇用情報

2019年12月末現在



クルー人数

約150,000名

全従業員

2,085名

女性店長比率

27.0%

女性管理職比率
（部長以上）

26.4%

女性役員比率

11.1%

出産・介護休暇制度利用者数

37名

育児短時間勤務制度利用者数

117名

障がい者雇用比率

2.31%

全社員月間平均残業時間

20.4hr

Data & Action

2019

環境情報

全店の食品及び容器包装廃棄物量

139,226トン 対前年比 +2.7%

食品廃棄量

売上100万円あたり **87.2kg** 対前年比 ▲3.6%

お客様1人あたり **32.4g** 対前年比 ▲1.5%

食品リサイクル率

56.2%

※食品リサイクル定期報告に基づく発生抑制を含む

全店のエネルギー使用量

原油換算 **205,907キロリットル** 対前年比 ▲0.4%

お客様千人あたりの使用量

電気 **447.6kWh** 対前年比 ▲3.5%

水道 **3.4トン** 対前年比 ±0%

ガス（都市ガス換算） **22.5m³** 対前年比 ▲1.3%

ハッピーセットのおもちゃリサイクル

遊ばなくなったハッピーセットのおもちゃを全店舗にて回収し、トレイにリサイクルするプロジェクトを行っています。そのリサイクルトレイを2019年6月に行われたG20「持続可能な成長のためのエネルギー転換と地球環境に関する関係閣僚会合」で展示し、大阪サミットではメディアセンターで使用されました。

http://www.mcdonalds.co.jp/company/news/2019/0711a/

Data & Action

2019 社会貢献

チャリティ

ドナルド・マクドナルド・ハウス支援 店頭募金活動

店頭募金、募金付きクーポン、マックハッピーデーによる募金額

総額 約1億300万円

災害支援活動募金

582万円

スポーツ支援

高円宮賜杯 全日本学童軟式野球大会 マクドナルド・トーナメント

約12,000チーム

http://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_communities/sports/mcd_tornament/

JFA 全日本U-12サッカー選手権大会

約8,500チーム

http://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_communities/sports/football/

地域貢献

安全笛贈呈数

845,250個

http://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_communities/community_relations/

ハロードナルド開催回数

673回

教育支援

2005年に制作した小学校の食育授業支援教材「食育の時間」を「食育の時間＋(プラス)」としてリニューアル

「食育の時間＋」のひとつ「テーマ：食品ロスを考えよう」が、“教育現場で役立つ優秀な教材”として認められ、「消費者教育教材資料2019“優秀賞”」を受賞しました。

http://www.mcdonalds.co.jp/company/news/2019/0319a/

教材を使った授業・指導実施回数

7,172回

受講児童・生徒数

のべ約210,152名

(2007.1月～2019.12月までの累計)

http://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_communities/food_education_support/

Scale for Good

より良い未来のために、皆さまとともに

企業がさまざまな社会的課題や環境問題に取り組むことは、重要な社会的責任です。マクドナルドは、それらの課題にマクドナルドの持つ強みとスケール(規模)を活用して取り組むことを2018年にグローバル方針「**Scale for Good**」として発表しました。
日本マクドナルドでも、特に注力する5つのテーマを掲げて取り組みを進めています。これらは私たちのCSRに基づく社会活動に含まれるものでSDGsも踏まえたものになっています。

http://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/

SCALE FOR GOOD

Scale for Good 5つの柱

持続可能な食材の調達

企業活動は持続可能なものでなければなりません。「食」を提供するマクドナルドにとって食材の調達における持続可能性を追求することは私たちの重要課題です。

パッケージ＆リサイクル

プラスチックを含む容器包装の環境対応はより具体的な行動が求められる課題です。リサイクルや素材、その取り扱いについてさまざまな対策を進めています。

ファミリーへのコミットメント

私たちは子供たちと家族のための幅広い活動を展開しています。家族の幸せと、未来を担う子供たちの健全な成長を支える取り組みを進めていきます。

ピープル・エンパワーメント

私たちは、すべての人々に成長の機会を提供することを基本姿勢とし、店舗で働く約15万人のクルーを含むマクドナルドに関わる人々をサポートしていきます。

気候変動への取り組み

気候変動への取り組みは個人、団体、企業、政府、世界の国々が抱える課題です。私たちはこれに対して行動を起こすことをコミットメントし、動き出しています。

Our Food

サプライヤーとのパートナーシップと食材の管理

マクドナルドの食材は、国内外のサプライヤーによって製造されています。安全で高品質な食材を確保するためにはサプライヤーとのパートナーシップの構築が必須です。それを前提にマクドナルドが定めた製造工程管理並びに品質管理のプログラムを実施することにより安全で高品質な食材を確保しています。

http://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_food/food_safety/food_management/

サプライヤー基本原則

マクドナルドには「サプライヤー行動規範」という基本原則があります。これはマクドナルドとパートナーシップを組むための基本原則で、関係法令、人権、労働環境、環境保全、事業運営の完全性などの遵守が規定されています。
この行動規範に対する具体的な内容は「サプライヤー職場環境管理プログラム：SWA」としてまとめられ、その実施の検証のために監査制度も定められています。

サプライヤー行動規範

関連法令の遵守	人権	労働環境	環境保全	事業運営の完全性

＋

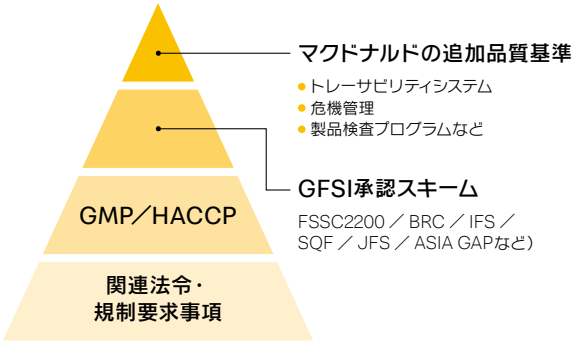
サプライヤー職場環境管理プログラム（SWA）

行動規範の着実な実行と維持のため、監査制度を導入したプログラム

食材の品質・製造工程管理

食材の品質は、製造工程における試験分析、官能評価によって確認されます。サプライヤーの管理を確認するためマクドナルドは定期的に抜き取り検査を実施し、微生物検査、理化学的試験分析を行っています。
製造工程の管理は、関連法令・規制要求事項をベースにGMP／HACCPによる世界食品安全イニシアチブ（GFSI）に準拠した食品安全管理システムにマクドナルドの追加品質基準を加えたマクドナルドサプライヤー品質マネジメントシステム（SQMS）によって実施されています。

※アニマルウェルフェアに関しては一部の種で実施しています。



Our Food

マクドナルド食品安全・品質マネジメントシステム

農場から店舗に至る品質保証は、国際規格に基づいた独自の品質・食品安全マネジメントシステムによって管理されています。システムの生産地、加工場、物流、店舗、それぞれの有効性を検証するため第三者による監査プログラムを導入しています。また、原材料から最終製品までの全工程の生産履歴の追求ができる「トレーサビリティシステム」を構築し、万が一のトラブルに対して、速やかな対応と原因追究を可能にしています。

http://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_food/food_safety/quality_management/

農場	加 工	物流／倉庫	店 舗
MGG	**SQMS**	**DQMP**	**ROIP**
GAP（農場）	HACCP（製造）	HACCP（物流）	HACCP（店舗）
食品安全管理	GMP	GWP・GDP	GCP
	品質管理プログラム	QIP（品質検査プログラム）	SSOP
など	など	など	など

監査プログラムによるシステムの有効性確認

Our Food

情報開示

皆さまに安心しておいしく召し上がっていただくために、商品のアレルギー・栄養・原産国情報を公式ウェブサイトおよび公式アプリでお知らせしています。商品のパッケージに付いているQRコードを利用していただくと簡単に確認いただけます。「栄養バランスチェック」、「アレルギー検索」は、メニュー選びの際にお役立てください。

http://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_food/allergy_Nutrition/

原産国情報

商品を構成する主要原材料の原産国、最終加工国をお知らせしています。

http://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_food/allergy_Nutrition/#origin

アレルギー情報

すべての原材料を精査した結果によるもので、原材料の仕様変更や製造・調理工程における交差混入など、常に最新の情報をご提供しています。

http://www.mcdonalds.co.jp/quality/allergy_Nutrition/allergy2.php?id=1

栄養バランスチェック

1日に必要な栄養のうち、マクドナルドの商品がどれだけ補えるか（充足率）をチェックすることができます。管理栄養士による年代別アドバイスや栄養素の説明もあり、健康的な毎日にお役立ていただける食育コンテンツです。

https://www.mcdonalds.co.jp/products/nutrition_balance_check/

選択した商品 ビッグマック・マックフライポテト(M)
野菜生活100(S)/30-49歳 男性/
身体活動レベル 普通

栄養情報

標準的な製品仕様と調理から「食品表示基準」（食品表示法）に基づく栄養分析の数値を基本とし、一部の食材は「日本食品標準成分表2015年版（七訂）」（文部科学省）を引用し作成しています。

http://www.mcdonalds.co.jp/quality/allergy_Nutrition/nutrient2.php?id=1

アレルギー検索

アレルギー物質を原材料（食材）として使用しているかどうかを調べることができます。食品表示法にて表示が義務付けられている7品目と、表示が推奨されている20品目について調べることができます。

https://www.mcdonalds.co.jp/products/allergy_check/

※ QRコードは㈱デンソーウェーブの登録商標です

Our Planet

廃棄物・環境保全

事業活動を展開する上で廃棄物対策は重要な社会的課題です。廃棄物の「再利用」や「再生利用」の前に、「発生抑制」を対策の基本として、システムの改善や容器包装等の素材の検討などを進めています。また、環境の保全を目的に環境認証の取得を積極的に行っています。

http://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_planet/waste/

2019年 廃棄物発生状況

完成品廃棄の推移

http://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_planet/waste/#loss

全店の食品・容器包装廃棄物量

全体	食品	紙製	プラスチック製	梱包材など
139.2千t/年	46.9千t/年	35.3千t/年	5.3千t/年	51.7千t/年
対前年比 +2.7%	対前年比 +1.1%	対前年比 +2.0%	対前年比 ▲1.9%	対前年比 +5.1%

お客様1人あたりの食品・容器包装廃棄物量

全体	食品	紙製	プラスチック製	梱包材など
96.1g/人	32.4g/人	24.3g/人	3.7g/人	35.7g/人
対前年比 ▲0.1%	対前年比 ▲1.5%	対前年比 ▲0.8%	対前年比 ▲2.6%	対前年比 +2.3%

環境保全

マクドナルドでは環境保全の推進の一環として環境認証を取得した原材料の導入を積極的に進めています。

http://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_planet/environment/

レインフォレスト・アライアンス

森林や生態系を守り、労働者に適切な労働条件を提供する「レインフォレスト・アライアンス認証」を取得した農園が栽培するコーヒー豆を使用。

MSC

MSC-C-57384

人類共有の財産である水産資源を守るため、「MSC認証」を取得した持続可能で環境に配慮した漁業で獲られた天然のアラスカ産スケソウダラを使用。

FSC®

FSC® N002365

2020年中に、お客様に提供している紙製パッケージの全てを、森林の環境に配慮して作られた「FSC®認証」紙に切替える予定です。

持続可能なパーム油の調達

熱帯雨林や生物多様性、人々の生活に悪影響を及ぼさないように配慮して生産されたことを示す「RSPO認証」を取得したパーム油を使用。

Our Planet

エネルギー対策

温暖化対策、気候変動への取り組みに関連し、エネルギー使用の対策は極めて重要な社会的課題です。単なる省エネルギーではなく、生産性に見合った適正なエネルギー使用を考慮した対応を進めています。

http://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_planet/energy/

2019年 エネルギー使用状況

全店の種別エネルギー使用状況

電 気

648.7
百万kWh/年
対前年比 ▲0.8%

ガ ス（都市ガス換算）

32.5
百万m³/年
対前年比 +1.6%

水 道

491.7
万トン/年
対前年比 +3.9%

お客様千人あたりの種別エネルギー使用状況

電 気

447.6
kWh/千人
対前年比 ▲3.5%

ガ ス（都市ガス換算）

22.5
m³/千人
対前年比 ▲1.3%

水 道

3.4
トン/千人
対前年比 ±0%

全体のエネルギー使用状況

原油換算値

205,907
キロリットル/年
対前年比 ▲0.4%

原単位原油換算値

0.2417
キロリットル/千レジカウント
対前年比 ▲3.2%

温室効果ガス排出量

44,248
t-CO_2/億レジカウント
対前年比 ▲8.9%

物流の省エネルギー

2019年の取り組みとして、配送業務の平準化・効率化のため、物流配送スケジュールや納品体系の見直しを行いました。
年間で約481t-CO_2の削減見込み
年間配送車運転時間で42,000時間の削減見込み

http://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_planet/energy/#logistics

また、この取り組みが評価され、令和元年度グリーン物流パートナーシップ会議「特別賞」を受賞しました。

http://www.mcdonalds.co.jp/company/news/2019/1217a/

店舗での省エネルギー

店舗では日々の店舗運営に伴うエネルギー管理を推進しています。

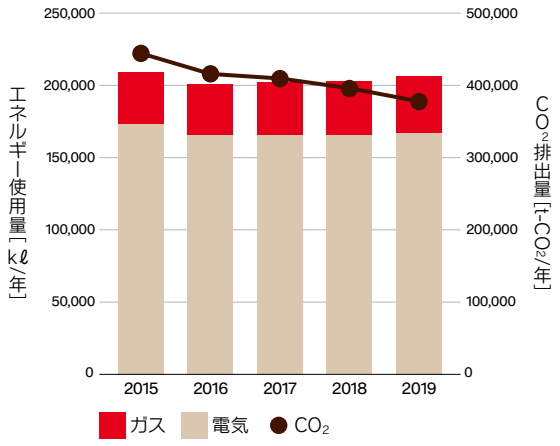
http://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_planet/energy/#saving

Our Planet

エネルギー及び温室効果ガス(CO_2)排出量推移

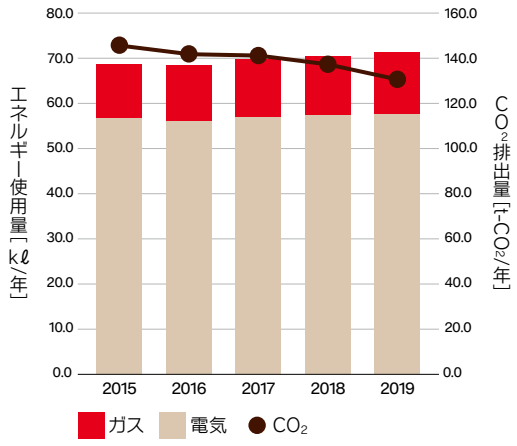
過去5年間のエネルギー使用状況並びにCO_2排出量の推移を 全店、店舗平均、客数原単位（1000レジカウント原単位）で示します。
エネルギー使用の状態は全店、店舗平均ではほぼ横ばい状態です。業績（レジカウント）に対する原単位使用量は業績が増加傾向にあるため、大きく減少傾向にあります。
CO_2排出量は電気の排出係数がこの5年間で減少しているため減少傾向にあります。特に客数原単位の排出量は2015年比で2019年▲30.2%の減少となっています。

エネルギー使用&CO_2排出量（全店）



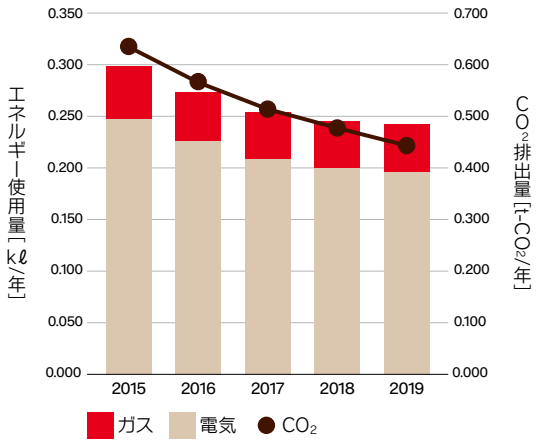
2015年を基準年として見ると、2019年のエネルギー使用量は▲1.5%の減となっており、5年間ではほぼ横ばいとなって大きな増減はありません。この背景には業績が増加していますが（2015年比 客数＋21.8%増）、店舗数がこの間で約150店舗ほど減ったことがあげられます。CO_2排出量は2015年から減少しており、2015年比で2019年は▲15.0%となっています。これは電気の排出係数が減少傾向にあることが原因しています。

エネルギー使用&CO_2排出量（店舗平均）



2015年を基準年として見ると、2019年は電気+1.2%　ガス+16.8%、両者合わせて+3.9%となっています。（電気、ガスの使用比率 電気82.1%、ガス17.9%）ガスは業績の増加に伴い増えていますが、電気は業績に敏感に影響されないのと、エネルギー管理の徹底の結果により微増となっています。CO_2排出量は2015年比で▲10.4%の減となっており、これは電気の排出係数が減少傾向にあることが原因しています。

エネルギー使用&CO_2排出量（1000GC原単位）



2015年を基準年として見ると、2019年のエネルギー使用量は▲19.1%と大きく減少傾向にあります。CO_2排出量も同様で2019年の対2015年比は▲30.2%となっています。この原因は業績の増加によるもので、1000レジカウントの推移は2019年で対2015年比+21.8%と増加しています。これは生産量に対するエネルギー使用量及びCO_2排出量が大きく減少していることを意味しており、エネルギー使用効率が上がっていることを示しています。

Our Community
（社会貢献活動）

「子供たちの未来がより幸せなものでありますように」の願いのもと社会貢献活動を行っています。

http://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_communities/

ドナルド・マクドナルド・ハウス支援

「ドナルド・マクドナルド・ハウス」は、病気と闘う子供とその家族のための病院のすぐそばに建てられた滞在施設です。現在は全国に11カ所あり、日本マクドナルドは国内1号の世田谷ハウスの開設当初から支援活動を行っています。全国の店舗の店頭募金や、マックハッピーデーのようなさまざまな企画を通しお寄せいただいた募金は、ドナルド・マクドナルド・ハウスの運営・建設のために「公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン」に全額寄付されています。

http://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_communities/dmhcj/

ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンHP

https://www.dmhcj.or.jp/

スポーツ支援

子供たちの心と体の健全な成長を願って、学童野球と小学生のサッカーを中心に大会の支援活動を行っています。

学童野球
（高円宮賜杯 全日本学童軟式野球大会 マクドナルド・トーナメント）

「小学生の甲子園」とも称され、全国約12,000チーム24万人が参加するトーナメントで、1986年から大会の特別協賛としてサポートを続けています。

http://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_communities/sports/mcd_tornament/

小学生のサッカー
（JFA 全日本U-12サッカー選手権大会）

12歳以下の選手で構成される小学生年代では最大の大会で、2011年から大会のサポートを行っています。

http://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_communities/sports/football/

Our Community

食育支援

子供たちに楽しく食べるよろこびと食の大切さを知ってもらうため、小学校での食育授業支援に取り組んでいます。デジタル教材「食育の時間＋(プラス)」の提供、食育授業支援事務局を設置して、DVD付き指導案の配布や教具の貸し出し、デモ授業実施や授業のご相談など、全国各地で食育授業を行う先生方の授業づくりのサポートをしています。

http://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_communities/food_education_support/

キャリア教育支援

幼児・小学校、中学校、高等学校、大学・社会人と子供の成長段階に応じて、食育や店舗実習といった業態を活かしたさまざまな教育支援プログラムを用意しています。また、食の安全の持続確保を目指すため、次世代の食の安全を担う専門人材の育成に鹿児島大学と共に取り組んでいます。

http://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_communities/mc_discovery/

地域貢献活動

「あなたの街とともにあるマクドナルド」として、街の美化活動や防犯など、安全で安心な活気ある街づくりを目指し、地域に貢献する活動を行っています。

http://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_communities/community_relations/

安全笛

2003年に沖縄から始まり、現在は全国の小学校1年生に毎年「安全笛」を提供しています。防犯用の笛には、夕暮れ時や夜間に自動車の運転者に存在を知らせる反射材が付いています。

http://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_communities/community_relations/#safe_city

子供110番の家

地域の警察本部等と協力して、地域の子供たちの安全を守るため、子供が危険に遭遇した際や困ったことが起きた際などにマクドナルド店舗に駆け込んで助けを求めることができる「子供110番の家」の活動を推進しています。

子育て支援

国と地方自治体が推進する「子育て支援パスポート事業」に協力し、各都道府県が発行している「子育て支援パスポート」を全国のマクドナルドでご提示いただくと「チーズバーガーのハッピーセット」を特別価格でご提供しています。

http://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_communities/community_relations/#child

クリーンパトロール

全国各地の店舗で地域美化に取り組んでいます。また、「海ごみゼロウィーク」への参加など、行政や市民団体主催の清掃活動にも積極的に参加しています。

http://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_communities/community_relations/#clean

Our People

http://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_people/

マクドナルドの
ピープルに対する考え方

Brand Promise
私たちがお客様に提供する価値

People Vision
マクドナルドは、世界中どの街でも、
ベストな雇用主となる

People Promise
マクドナルドは従業員の皆さんと
その成長及び貢献を、
価値あるものとして大切にします

具体的取り組み

- ダイバーシティ & インクルージョン
- EVP
- ハンバーガー大学

People Vision（ピープル ビジョン）と People Promise

マクドナルドには、「マクドナルドは、世界中どの街でも、ベストな雇用主となる」という People Vision（ピープル ビジョン）があります。これはマクドナルドが企業としてマクドナルドで働くすべての人に対して持っているグローバル共通のビジョンです。

People Vision（ピープル ビジョン）を達成するために、マクドナルドはすべての従業員に対して、「マクドナルドは従業員の皆さんとその成長及び貢献を、価値あるものとして大切にします」というPeople Promise（ピープル プロミス）を約束しています。

企業としての従業員に対するビジョンとしてPeople Vision があり、その達成のための従業員への約束が People Promise です。

http://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_people/people_vision/

Our People

ダイバーシティ＆インクルージョン

People Business（ピープル ビジネス）を掲げるマクドナルドにとって、「人」の多様性（ダイバーシティ）を取り入れる（インクルージョン）ことは重要なことです。性別、年齢、国籍、キャリアバックグラウンド、障がいの有無などに関わらず、あらゆる多様性を尊重し、多様な働き方の実現やキャリア開発の機会を提供しています。一人ひとりがやりがいを持って活き活きと活動し続けられる環境をつくることが、企業力の向上につながると考えています。

http://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_people/diversity_and_inclusion/

多様な人材の活躍推進

女性の活躍
若い世代の育成・就労支援
シニア（プレミアムエイジ）の活躍
障がい者の雇用

多様な働き方の推進

ワークライフバランス

キャリア開発の推進

キャリアアップ支援
人事評価制度（PDS）
教育機関（ハンバーガー大学）

EVP（Employee Value Proposition）

従業員が仕事やコミットメントを通して、マクドナルドから受け取るものおよび価値。マクドナルドは従業員が最も価値を置いていることをサポートするポリシーとより多くの価値を提供するプログラムの実行に取り組んでいます。

http://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_people/evp/

ハンバーガー大学

マクドナルドは全世界共通のグローバルシステムを持っています。ハンバーガー大学はそのひとつで、最新の教育理論及び手法を用いて、人材育成とそのシステム開発に取り組む専門教育機関です。店舗のクルーから経営陣に至るまで、あらゆる職位の従業員に対して必要に応じた教育プログラムや研修、ツールを提供しています。

http://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_people/university/

SDGsから見たマクドナルド

SDGs（17の持続可能な開発目標）を検討し、社会が直面する課題の中でマクドナルドがポジティブな変化を起こせると考える6つのゴールについて紹介します。

http://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/sdgs/#01

目標2

飢餓をゼロに

安全で栄養価が高く十分な食糧の提供には、持続可能な食料システムとより柔軟な農業慣行を必要とします。マクドナルドは、生産地から店舗に至る過程の中で環境と地域社会、そして私たちにとってより良い方法で調達を行い、美味しい商品を提供することをコミットしています。

目標8

働きがいも経済成長も

持続的かつ包括的な社会の成長には、特に若者の成長が不可欠です。マクドナルドは、働き甲斐のある仕事や、店舗やオフィスで価値ある啓発の機会を提供することにより、地域社会における多様性と包摂性を促進すると考えています。

目標12

つくる責任 つかう責任

持続可能な調達を行うためには、天然資源を効率的に使用し、人々や地球環境に与える影響に配慮する必要があります。マクドナルドは、調達後の廃棄物の問題を含め、循環型社会を支援することを目指しています。

目標13

気候変動に具体的な対策を

気候変動は、私たちの時代における重大な環境問題であり、世界中のすべてのコミュニティそして生態系に影響を与えます。マクドナルドは、世界最大のレストラン企業のひとつとして、差し迫ったこの問題に対して現在と将来の世代のために取り組みを進めます。

目標15

陸の豊かさも守ろう

世界は森林減少の脅威にさらされており、これに伴う温室効果ガス排出量は全体の15%を占めると推定されています。マクドナルドは、サプライヤー、政府、生産者、NGO、NPOと協力し、地球環境に有益な責任ある林業と生産慣行の支援推進に努めています。

目標17

パートナーシップで目標を達成しよう

私たちの規模を活かした社会・環境上の課題への取り組みを推進するためには、マクドナルド社内だけでなく、従業員、フランチャイジーやサプライヤーから投資家、行政、NGO、NPO、そして専門家に至るパートナーシップを構築して臨むことが必須であり、持続可能な社会につながると考えています。

マクドナルドとSDGsの関係

http://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/sdgs/#02

	1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に	7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任 つかう責任	13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさも守ろう	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナーシップで目標を達成しよう
持続可能な食材の調達		●				●						●	●	●	●		●
ドナルド・マクドナルド・ハウス支援			●								●						●
スポーツ支援			●														●
食育支援		●		●													●
キャリア教育支援								●									●
地域貢献	●			●							●						●
ピープル ビジョン ダイバーシティ＆インクルージョン ハンバーガー大学					●			●		●							●
プラスチック対策												●		●			●
森林保全															●		●
廃棄物対策									●			●					●
おもちゃリサイクル									●								●
エネルギー対策							●						●				●
コーポレートガバナンス																●	●

第三者意見

私たちの暮らすかけがえのない地球上で、共生していくために2020年は生物多様性の観点からも重要な年であり、企業としても様々な社会的課題や環境問題に対して取り組む必要があります。2018年からの取り組みである「Scale for Good」の5つの柱では、世代を超えて日常を支え、関係性を築いている企業ならではの、強みとスケールを活用した、更なる実践が伺える内容となっています。

サプライヤー基本原則や国際規格に基づいた原材料調達、マネジメント、監査を通じた実施の検証等、食を扱う上で重要な視点はもとより、環境配慮や認証への取り組みも積極的と言えます。また、リサイクルトレイ等の循環システムや、廃棄物については、業績の増加により全体は増加しているものの、お客様一人あたりの量が対前年比で減少している点から、エネルギー対策同様、社会的ニーズに合わせた努力が見受けられる結果であり評価出来ます。今後、サービスの性質上、更なる資源の使用量及び廃棄物削減への革新も望まれるでしょう。
更に、継続的な社会貢献や、ハンバーガー大学等徹底した教育に至るまで、関係する人々の今そして未来が幸せであるために、果たすべき役割の見える化とSDGsとの関係性も整理されています。
気候変動や様々な予期せぬ事態が起こりうる時代、多くの課題に多角的に取り組みながら、SDGsへの貢献そして誰もが笑顔になれる社会へ、日本マクドナルドが社会変革を牽引されることを期待しています。

山口真奈美

一般社団法人 日本サステナブル・ラベル協会 代表理事
一般社団法人 日本エシカル推進協議会　副会長